東京都立田園調布高等学校　学校だより

さきはへよ

「幸へよ（さきわえよ）、豊かに栄えよの意　校歌の一節より」

平成２８年度　第３号
発行　平成２９年２月２３日
東京都立田園調布高等学校
東京都大田区田園調布南 27-1
電話　03-3750-4346

数学勉強法

校長　海發　真一

授業をしていたころ、生徒から「どうしたら数学ができるようになりますか」と聞かれることがありました。「授業をしっかり受け、予習・復習を欠かさないことです」という答えではあまりにも具体性がないので、私自身の経験を踏まえ、数学の勉強に挑む姿勢について述べたいと思います。

私は数学の教員になりましたが、子供の頃からずっと数学が得意だったわけではありません。小学校の算数はそれほど苦手ではありませんでしたが、中学校に入って算数が数学になってからは授業が分からない時期がしばらく続きました。

今から思うと、私が取った勉強の仕方がよくなかったのですが、「これはこういうことだろう」と自分なりに勝手に解釈したやり方で勉強を進めていて、教科書をよく読まなかったり、先生の説明をよく聞かなかったりしたことが多々ありました。それでうまくいっていればよいのですが、中学校の数学ではわからないことが少しずつ増え始めていきます。

ややおおげさな言い方ですが、人類が長い時間をかけて築き上げてきた概念や思考方法を獲得する過程においては、私が取ってきたような独り善がりの勉強方法ではうまくいきません。定期考査では解けない問題が次第に多くなってきました。

中学２年生になって数学の先生が代わりました。Ａ先生は、噛んで含めるような丁寧な説明をしてくださり、生徒は自然と授業に集中しました。先生の話をよく聞いていると「ああ、そういうことか」と新しく習う概念や考え方がよくわかるので、問題もどんどん解けるようになり、特に三角形の合同や相似の証明では論理的思考の楽しさや面白さを実感して、数学が得意教科となりました。

高校に進学してからは、授業を聞くだけではわからない問題も増えてきました。どのように手を着ければよいのかという発想すら浮かばないことも少なくなく、勉強がはかどりません。しかたなく取った方法は、しばらく考えて、それでもわからない問題は解答をよく読み、考え方や解き方を自分の頭で理解していくことです。前述のとおり、初学者にとって、自分の乏しい発想力や思考力のみでは多くの先人たちの智慧にかなうわけがなく、基礎・基本を身に付ける段階では、この方法によって新しい概念や思考方法を獲得する謙虚さや努力が必要になると思います。

大学の講義ではなおさらで、板書を写しながら先生の説明をその場で理解しきることは大抵の場合とても難しく、自分の頭で本気で考え、教科書やノートを理解する自学自習の姿勢を継続していきました。

茶道や剣道などでは「守破離（しゅはり）」という修行における段階があると言います。これに則れば、先ずは謙虚な気持ちで授業や教科書等から基礎・基本となる知識や考え方を正しく身に付けることが大切になります。次に、自身の独創性を加味して問題解決力を高めていく段階に移っていきます。最終到達地点は、他者の力を借りることなく問題解決ができるようになることでしょうか。

「千里の道も一歩から」の言葉どおり、努力が結実するには相応の時間が必要です。しかし、謙虚で誠実な努力を継続することで数学を得意教科にすることはできますし、他教科の勉強方法についても同様のことが言えます。

田高の先生方は親身になって生徒の頑張りを支援してくれます。正しい勉強方法で、得意科目を増やしていきましょう。

３学期を振り返って

進路指導部　　藤井　実

■大学別入試説明会……　３年生の希望者を対象に各大学の担当者に来ていただき、入試説明をしてもらいました。実施した大学は、法政大学・明治学院大学・成蹊大学・東洋大学・専修大学・駒澤大学です。

■大学説明会　１０月２７日（木）　……１・２年生を対象に「大学説明会」を実施しました。参加大学は、筑波大学・東京外国語大学・東京学芸大学・学習院大学・青山学院大学・東京理科大学・東京女子大学・昭和大学・立教大学・中央大学・東洋大学・明治大学・法政大学・明治学院大学・東京都市大学でした。生徒たちは、各大学の特色、入試方法・内容、受験状況などの説明を熱心に聞いていました。

■平成２９年度大学入試センター試験……１月１４日（土）・１５日（日）に、平成２９年度大学入試センター試験が行われました。１月１６日（月）に本校で１６７名が自己採点しました。

■２年生公務員ガイダンス（2 回実施）　１１月　９日(水)、１２月　７日(水)……　２年生の公務員希望者を対象に、第１回は進路指導部から説明を、第２回は公務員試験に合格した３年生の生徒から体験談を話してもらいました。

《今後の予定》

□２年生向け進路講演会　３月１５日（水）……今年度の３年生から合格体験談を話してもらいます。

身体の感覚器官を動員して　その２

副校長　増田　雅子

１月から校内は合唱祭モードに入り、校舎内は生徒たちの声で幸せな空間になっていました。「音楽療法」とかサウンドセラピーというのを聞いたことがあるでしょうか。音楽を取り入れることで気持ちを整え生活を豊かにする方法が、古代ギリシャから行われ、数学者のピタゴラスも「音楽は人間の精神の乱れを癒す」と唱えたほど、長い歴史に培われた世界です。

１月８日（日）東京文化会館大ホールでの東京都高等学校文化祭音楽部門中央大会に田高の吹奏楽部も参加しました。年末年始も返上して練習に明け暮れたことでしょう。吹奏楽、管弦楽、混声合唱のプログラムで、生徒と先生方の情熱と、音の多彩さに感動で鳥肌がたちました。この日の会場で、吹奏楽部の生徒が「顧問の先生とここで、『大地讃頌』を最後に歌うのが楽しみなのです。」と話してくれました。田高の生徒達は音楽の道のようなものを持っていると感じ、大変うれしく思いました。『大地讃頌』「母なる大地のふところに、我らに人のこの喜びはある　大地を愛せよ　大地に生きる　人の子ら　その立つ土に感謝せよ・・・」とはじまるこの歌を 30 年前に同僚だった音楽の先生の隣で、彼女の深い声の響きを体感しながら私も歌えました。会場全体からもらうエネルギーと余韻がいつまでも残る一日でした。医療の現場でも、自然に発声された自分自身の声は、自分を、そして他者をも癒すことが研究されていますし、耳や体感から得る音の力は様々な分野で研究されています。

さて、今週から、１年生の『人間と社会』・オリンピックパラリンピック教育関連で、視覚障碍の方のための点訳講座が町田市赤十字点訳奉仕団の方を迎えて始まります。光、視覚を失っても、指先の感覚から、細かい 6 点の点字が読めて、さらに聴覚、嗅覚、体感から脳神経の記憶の海馬に新たな回路が生まれている全盲の方々が育っています。聴覚が優れ、数か国の言語をマスターする方や、音楽分野で活躍する大勢の偉人もいらっしゃる分野です。点字はその方々を支えます。今回は環境分野の「東北ショックドクトリン」古川美穂（著）という本を点訳します。持続可能性・環境問題や点訳ボランテイアに興味のある生徒はぜひ声をかけてください。

29 年度の部活動推進指定校（体力気力鍛錬道場）に田園調布高校は指定されました。体力だけでなく、時間をかけなくてはなかなかものにならない文化部門も気力は充分に必要です。皆さんの文武両道への全力投球と自然と人間を愛する心のさらなる成長を楽しみにしています。

★東京都高等学校文化祭音楽部門中央大会東京文化会館大ホールにて

★点字エディターで点訳を入力します

合唱祭を終えて

１学年　吉田　宣浩

６７期生もそろそろ高校生活が１年になろうとしています。先日、これまで１年間の高校生活の集大成ともいえる第１０回合唱祭が大田区民ホール・アプリコを舞台に開催されました。２学期にぽろにあ祭が終わると、学校全体が一気に合唱祭に向けての動きになり、特に期末考査が終わると放課後は合唱祭の練習一色になりました。１回目の体育館リハーサルでは、課題曲である校歌を歌ったものの、１学年はどのクラスもメロディは不安定で歌詞も覚えきれておらず、先行きがとても心配でしたが、本番の合唱祭ではどのクラスも見事に校歌を歌いきりました。

また、自由曲は各クラスとも表現を工夫して練習を重ね、２年生とも互角と言えるほどの出来映えになっていました。その結果、１学年からはＥ組が銅賞に輝くとともに、自由曲「信じる」を指揮したＹ君がベストコンダクター賞を受賞しました。６７期生にとっては、来年度もう一度合唱祭に参加できるので、今回の経験を生かして、より素晴らしい行事に成長させていってもらいたいと思います。

さて、合唱祭が終わると気持ちを切り替え、進級を見据えてしっかりと学習活動に取り組むことになります。まずは、学年末考査があと一週間ほどに迫っています。頑張りましょう！

みんな歌い上げました！　合唱祭2017レビュー

生活指導部　豊田　基裕

２月８日，今回で 10 回目となる合唱祭が，昨年までのめぐろパーシモンから大田区民ホール・アプリコに会場を移して無事開催されました。今回の合唱祭では大きく２点，変更点がありました。１点目は，自由曲において，クラスの希望や歌唱力に応じて混声３部合唱を認めたことです。２点目は，審査時間中のアトラクションとして，これまでのＰＴＡ有志合唱に加え，生徒有志合唱を入れたことです。今年度設立された合唱同好会を中心として意欲のあるメンバーが，クラス発表とは別に本格的な合唱にチャレンジしました。

振り返ってみると，ぽろにあ祭が終わった翌 10 月から実行委員会が立ち上がり企画準備を始めました。各クラスで選んだ自由曲の楽譜を用意し，デッキキーボードを各練習場所に設置して，昨年 12 月の期末考査終了後から各クラスで練習が始まりました。第１回リハーサル時はどのクラスも，入退場の整列から肝心の校歌の歌唱や鑑賞態度まで不安を感じさせる状態でした。１月の第２回リハーサルでは、果敢に自由曲を歌ったクラスもある一方で，まだ校歌を練習中という感じのクラスも少なくありませんでした。そして，全クラス自由曲に挑戦した今月２日の第３回リハーサルでも，まだステージには上げられる状態でないクラスが見られました。しかし，それから当日の朝まで，各クラス，どんどん時間外活動が増えていき，その意欲に応えるように高野瀬先生の指導にも熱が入って，何とかカタチにして合唱祭当日を迎えることができました。

当日，残念ながらインフルエンザでダウンしてしまった生徒もいた中，どのクラスも見事なハーモニーで校歌と自由曲を歌い上げることができました。聴衆が聞き惚れる歌声が次々と披露され，例年以上に審査も混戦模様でした（審査結果は下記の通り）。実行委員を始め，各クラス委員や指揮者，伴奏者，パートリーダーの皆さん，本当にご苦労様でした。そして，ご協力いただいた音楽科や担任をはじめとする先生方や審査員の方々，一般財団法人田園調布教育財団の皆様，ご参観いただいた保護者の皆様，ありがとうございました。

◎金賞　　…　２年Ｅ組（自由曲「いのちの名前」）
◎銀賞　　…　２年Ｄ組（自由曲「はじまり」）
◎銅賞　　…　１年Ｅ組（自由曲「信じる」）
◎校歌賞　…　２年Ｅ組
〇ベストコンダクター賞　…　Ｉさん（２Ｄ）　Ｙくん（１Ｅ）
〇ベストピアニスト賞　　…　Ｎさん（２Ｅ）

クラス集団を成長させてくれた合唱祭

２学年　増田　和明

「（こんなにいい学校だったら、）もっと早く田高に来て（転入して）いればよかった・・・・」
２年次から転入したＳ君に、担任が「１学期も終わるけれど、もう学校に慣れた？」と声をかけたときの応えがこれでした。彼は今回の合唱祭でも、ピアニストとして大活躍。表情も豊かに、からだ全体でピアノの音色を奏でるような、楽しげな弾き方が印象的でした。２学期に入ってから、「もしや、Ｓ君ってピアノ、弾ける？」という学年担任団からの声かけがきっかけで、ピアニストになることを決断してくれました。初めは自信なさ気な彼でしたが、練習を重ねるにつれて、クラスのために貢献したいという思いが強まっていった様子でした。合唱祭の本番では、クラスの中で、一番生き生きしているように見えました。ベストピアニスト賞はとれませんでしたが、彼のクラスを思う「熱い思い」に賛辞を贈りたいと思います。本当に、田高に来てよかったですね。

合唱祭の直前に、再びインフルエンザが流行ってしまい、２学年の一クラスで、指揮者もピアニストも不在になるという危機的状況を迎えました。しかし、このクラスのリーダーであるＩ君の冷静かつ迅速な対応もあり、即座に代役を決めて、何事もなかったかのように本番を乗り越えられました。指揮者もそうですが、特に２日前からのピアノの練習は、相当たいへんだったと思います。ピアニストの代役を務めたＴ君のクラスメートを思う気持ちと、クラスの団結力の大きさを感じさせる、忘れられない出来事でした。このクラスの底力を見せてもらいました。一方、合唱祭を楽しみにしていたにもかかわらず、インフルエンザで参加できなかった生徒の思い、特に指揮者・ピアニストとしてクラスのためにがんばろうと思っていたのに、実現できなった２人の気持ちを想像するとやるせなくなります。でも、大丈夫！　インフルエンザで参加できなかった君たちの分もしっかりとがんばってくれたクラスメートがいます。この合唱祭を経て、ますます友情が深まることを望みます。

６６期生については、入学前から力を入れてきた校歌練習の成果がじわじわと現われてきたと感じました。積み重ねが大事であることを実感できた「最後の合唱祭」となりました。

賞をとれたクラスも、とれなかったクラスも、みんな真剣に取り組んでいる姿は変わりませんでした。担任としては、いつもハラハラ、ドキドキさせられる行事ですが、どのクラスも、２年目は１年目よりも、生徒の主体性が光っていたと感じています。合唱祭！！生徒一人ひとりを、そしてクラス集団を成長させてくれる素晴らしい行事でした。合唱祭よ！！感動をありがとう。この感動を胸に、６６期生は次のステップに踏み出します。

大きく翼を広げ羽ばたく時！

３学年　荻原　秀明

平成 26 年 4 月 7 日入学式を迎えました。第一回勉強合宿、「自学自習」をテーマに学習を開始し、スコラ手帳を使い始めました。自己管理ができる学校生活を目指しました。

体育祭では多くの勇姿が覗え、ぽろにあ祭では多くの工夫、合唱祭ではクラスが一つとなるとなる難しさと感動がありました。修学旅行は北海道へ、新千歳空港では豪雨の中移動、富良野・美瑛では壮大な大地の中の体験学習、支笏湖では、雪が舞う中の秘湯の宿「丸駒温泉」翌朝は感動的な朝焼けでした。

今、3 年生が終わろうとしています。そして、各自の進路がもうすぐ確定します。
田高生活が、人生の糧となると確信しています。自分の将来に向けて、大きく翼を広げ羽ばたく時です。輝く人生を求めて飛び立って下さい。

65 期生のみなさん、卒業おめでとう。